



須磨寺 ひとすじ弁財天

青葉の笛だより

第 19 号

平成 29 年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

平成二十九年の干支は酉年です。その酉年の鳥の代表は鶴でも鷹でも鷲でも鳩でもなく、鶏が当てられています。鶏は「時を告げる鳥」として「古事記」にも記されており、朝早く声高らかに鳴く事から、太陽の使者として崇められてきました。また、火事を封じる力があると思われていたことなど、鶏は人間にとって大変大切な鳥だったようで、そのようなことから鶏が鳥の代表になったようです。

『ミリンダ王の問い』という仏典には、鶏の生誕が仏道修行者のあるべき姿として説かれているので紹介します。「先ず、鶏が地面を突いて餌をついばむように、仏道修行者は食事をすする時に何度も自分を省察しなければなら

ない。また、鶏が決まった時間に起きるように、仏道修行者も時を決めてお堂や庭を掃除し、身体に留意して礼拝しなければならないということ。そして、鶏は棒や杖で叩かれたり追われたりしても自分の家から離れることがないように、仏道修行者はどんなに辛い時や悲しい時も、正しい努力と注意を怠らないで日々の勤めをはたすこと。この正しい努力と注意こそが仏道修行者の家である。」と説かれていました。どんな時でもコツコツと餌を啄み、朝早く起きる鶏の勤勉性を称え、仏道修行者もこのようにあるべきだと教えられているのです。

あの阪神淡路大震災も二十三回忌を迎えます。多くの死や悲しみを抱きながらも、それを乗り越えて来られた方々を目の当たりにして、多くのことを教えていただきました。鶏に譬えられた仏道修行者のあり方を見つめながら、今年もしっかりとした自分を作っていきたいと思っています。

合掌

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

十三佛に見守られて(5)

— 文殊菩薩

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

文殊菩薩は、詳しくは文殊師利菩薩ともい、穢れない浄らかで明晰なさとり智慧を体現した、仏教の智慧の徳を司る智慧第一の菩薩であります。私たちは、身近なほとけとして、親しみを込めて文殊さんと呼んでいます。

ところで、仏教の最も肝要にして、その体現を目的としているのは、言うまでもなく智慧と慈悲とであります。

智慧とは、すべてのもの（物事）の真実ありのままのすがた（実相）を正しく認識し、迷いを断ち切つてさとり（菩提）を完成するはたらきであります。すなわち、真理を見極める叡智のことです。

慈悲とは、仏や菩薩が衆生を救われみ、つくしむ心で、すべての人々を救いとする愛のはたらきであります。すなわち、衆生の苦を抜き（悲）、衆生に樂を与える（慈）聖なる愛のはたらきです。

では、話を文殊菩薩にもどしましょう。文殊菩薩は、「文殊の智慧」といわれているごとく、すぐれたさとの智慧の体得者（持ち主）、体現者であります。ただし、その智慧は情的にはたらく智慧というより、むしろ純粹に理知的・理性的な智慧といつてよいかと思ひます。すなわち、主観を交えずに、物事の実相（ありのままのすがた）を、ありのまま（如実）に把握する究極のさとの智慧なのであります。

さて、文殊菩薩には、一字文殊、五髻

文殊、僧形文殊、稚児文殊（童形文殊）などいくつかの姿があります。だが、一般的には、右手に利剣を握り締め、左手に経巻（お経の巻物）を持ち、獅子の上に置かれた蓮華座に坐つておられます。その剣は鋭く研ぎ澄まされた智慧のはたらきを象徴し、経巻は智慧そのものの徳を象徴し、獅子は智慧のはたらきが能動的で威勢のあるさまを象徴しています。また、蓮華は智慧の根底に慈悲がはたらいていることを示し、文殊の智慧も仏教の究極のはたらきである慈悲に則つて、いることを象徴しているのがあります。

ところで、文殊菩薩の仏像や仏画には、独尊としての作例も多くありますが、よく知られているのは、普賢菩薩とともに、釈迦如来の脇侍として、釈迦の両脇に安置されているお姿です。これを釈迦二尊といひます。（脇侍とは、脇士、脇立ともいひ、中尊の釈迦如来に随従（つきしたがう）して、中尊の釈迦の布教の助けをしている姿を表わしています。）通常は、釈迦の左側には智慧を司る文殊菩薩が、右側には慈悲を司る普賢菩薩がおまつりされています。これは、文殊菩薩は釈迦如来の智慧の部門を受け持ち、普賢菩薩は慈悲の部門の手助けをしていることを表わしているのです。このように、智慧を象徴する文殊と慈悲を象徴する普賢が脇侍として安置されているのは、釈迦如来が智慧と慈悲とを円満に完成された仏さ

まであることを示しています。このことは、仏の教え（仏教）が智慧と慈悲の宗教であることを如実に示現しているのではありません。

それでは、三七日（みなぬか、死後二十一日目の日）のお導師（守り本尊）である文殊菩薩について少し述べておきましょう。

ご承知の通り、十三仏とは年忌追善に際して、初七日から三十三回忌までの十三回に配当して供養する仏・菩薩のことです。この十三仏の教えは、生きてゐる人々に説く教えと亡き人々に説く教えとがそれぞれに異なっているではありません。ともに、同じ教えを説かれてゐます。ただ、亡くなった人達の多くは、生前仏の教えを詳しく知らなかった人が多い筈です。それで、十三仏は、それぞれ回忌ごとに、生きてゐる人々に説かれたのと同じ教えを改めて説き示しておられるのです。

二七日からの一週間は、釈迦如来が仏教全般にわたる深甚なる教えを説かれたかれました。だが、初めて仏教の教えを聞いた亡き人々には、少し難しかった筈です。それで、より分かりやすく説き教えるために、

須磨寺 写経輪堂 文殊菩薩



三七日に当たつては、文殊菩薩が仏教の智慧の部門を教示されるのであります。

その教えの基本は、釈迦の説かれた縁起や三法印などの教え（前々回参照）に基づいて、般若空觀の教えを説き示されるのです。空とは、すべての事象（物事）は、例外なく因縁（縁起）によつて生じ、成り立つてゐる仮の姿形で、永遠に変わらない実体や自我はないということです。空觀とは、この空を觀じさることなのです。

このように空を觀ずることによつて、私たちはあらゆるこだわりの執着や束縛から解放され、完全なる精神の自由を獲得することができると説くのであります。つまりは、迷いを転じて悟りを開くこと（転迷開悟）が可能になるのであります。

かくて、三七日から一週間かけて、この空の教えを学び、大いなる智慧の世界のあることを觀じて、さらに一歩進んで、四七日の普賢菩薩の教えに巡り合うことができるのであります。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

平成二十八年十二月三十一日、午後十一時四十五分より、例年通り、参拝者の皆様を除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜、当山境内にて、清らかな鐘の音と共に、旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より、護摩堂に於きまして、千巻心経法要を執り行います。

当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、



新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせ、般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合いい、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

修正会のお知らせ

平成二十九年一月一日午後二時より、当山本堂に於きまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に続き、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申込みされた方には、当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆さまと共に祈念したいと思ひます。



授与品 五千円 祈願札（木札）・破魔矢・

数珠

三千円 祈願札（紙札）・数珠

申込期限 一月一日正午まで

須磨寺寺務所にて承ります。

須磨寺管長

「丁酉歳後七日御修法」 出仕

後七日御修法とは、一月八日から一週間、京都の東寺にて執り行われ、真言宗各派総大本山の山主と定額僧（真言宗全体から選ばれた高僧）によって国家安泰と世界平和を祈る、真言宗最大の法要であります。

この度、当山管長が平成二十九年後七日御修法に出仕いたします。そこで、結願にあたる一月十四日にお迎えに上がり、あわせて法要が行われた直後の「灌頂院」の道場を参拝するバスツアーを企画いたしました。一年でこの日しか「灌頂院」に入ることはできません。灌頂院の中では、縦横約四メートルもある両界曼荼羅や、弘法大師伝来の仏具、五大明王や十二天の御軸などを拝観することが出来ます。貴重な機会ですので、ご知友お誘い合わせのうえ是非ご参加下さい。



日時 平成二十九年一月十四日（土曜日）

場所 東寺「灌頂院」

旅行代金 一人七千三百円也（昼食・灌頂院拝観料を含む）

出発時間 午前八時 須磨寺前交番 出発

募集人数 四十名

募集締切 一月十日

※お申し込みは須磨寺寺務所にて承ります。

阪神淡路大震災

二十三回忌速夜法要



日時 平成29年 1月16日(月) 午後3時

式場 大本山須磨寺 第1式場 本坊客殿
第2式場 阪神淡路大震災供養塔前

来る平成二十九年一月十六日午後三時より、須磨寺書院におきまして「阪神淡路大震災二十三回忌速夜法要」が全日本仏教会主催のもと厳修されます。

平成七年一月十七日午前五時四十六分、阪神・淡路地方を襲った未曾有の大災害から、二十二年の月日が経とうとしています。全日本仏教会では、平成九年十月に財団創立四十周年記念大会を神戸で開催した際に、須磨寺境内に阪神淡路大震災物故者追悼供養塔を建立しました。平成二十九年は東日本大震災の七回忌にあたります。また近年、「激甚災害」に指定される災害が後を絶ちません。阪神淡路大震災二十三回忌という節目に、あらゆる災害で亡くなられた方々の慰霊と、被災地の復興に祈りを込めます。皆様にはどうかお参り頂き、焼香賜りますようお願い申し上げます。

記

導師 小峰一允猊下(全日本仏教会会長 真言宗智山派管長)

総本山智積院化主

協導師 小池弘三猊下(真言宗須磨寺派管長 大本山須磨寺貫主)

篠原法傳僧正(兵庫県仏教会会長)

職衆 全日本仏教青年会

主催 全日本仏教会

共催 大本山須磨寺 兵庫県仏教会

協力 全日本仏教青年会 兵庫県仏教青年会

神戸市仏教青年会 神戸市真言宗連合会

須磨区仏教会

※須磨寺で毎年行っております一月十七日の阪神淡路大震災物故者慰霊法要は例年通り執り行います。一月十七日、午前五時三十分から本堂において、午前十時から本坊客殿において行います。



薬師如来と十二神将



頼政薬師寺

頼政薬師寺 鬼追い式

来る平成二十九年一月十八日午前十一時半より頼政薬師寺において「鬼追い式」が行われます。毎年一月八日に行っていますが、本年は当山管長が御修法に出仕の為十八日に執り行います。

頼政薬師寺は正式名称を「浄福寺」と言い、真言宗須磨寺派の寺院です。西須磨の旧家前田氏の建立と伝えられ、ご本尊は聖徳太子の御作と伝わる薬師如来、脇士は尼崎藩主青山公の寄付と伝わる十二神将であります。久寿の頃（一一五四～一一五六）源頼政が再興したことからは、頼政薬師と呼ばれるようになりました。平成七年の阪神淡路大震災によって倒壊し、平成十一年十一月に再建されました。

明治以前浄福寺では、毎年一月八日薬師統人という、この村の人が集まる儀式があり、座敷に松竹梅の三宝を飾り、その上座には薬師如来をまつり、全員がかみしもを着用して謡曲で興がそえられました。この儀式に参加することによって初めて、村人として認められたと言います。夜には鬼踊りと称して仮面をかぶった鬼たちが里人を狂ったように追い回す鬼追い式が行われていました。この鬼追い式は、非常に有名で、当時の須磨の一番大事な祭りであったと伝えられています。

近年は僧侶が牛王杖（ごおうじょう）で床を叩きながら読経し、地にいる鬼を追ひ払う儀式が行われ、形を変えてこの伝統行事が受け継がれています。

人々の繁栄と家内安全を祈る、伝統ある頼政薬師寺の鬼追い式に是非お参り下さい。



鬼の面

日時 平成二十九年一月十八日（水曜日）
十一時半 開闢
場所 頼政薬師寺（須磨寺駅から東に徒歩2分）

参拝自由

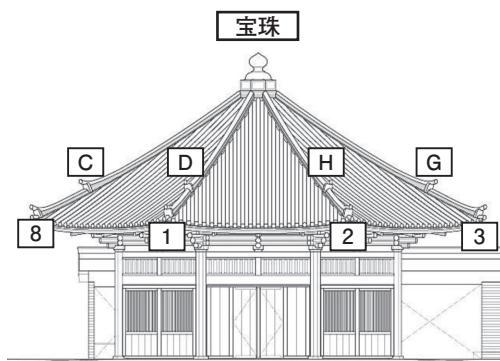
記

✿ 八角堂屋根瓦奉納 ✿

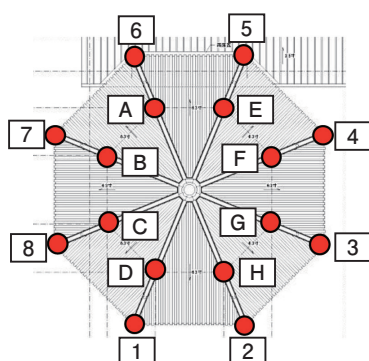
このたび、いままでの経木供養所を一新し、八角堂を建立いたします。つきましては、みなさまに屋根瓦のご奉納をお願いいたしたく、ここにその内容をお知らせいたします。瓦にはご奉納いただいた方のお名前と願意を記し、末永く顕彰いたします。

- | | |
|--------------|------------|
| ●瓦 1枚 | 2,000 円 |
| ●鬼瓦 (A~H) 一体 | 200,000 円 |
| ●鬼瓦 (1~8) 一体 | 250,000 円 |
| ●宝珠 | 1000,000 円 |

お申込みは須磨寺寺務所にて。申込期限は3月末日です。



【建物正面図】



【屋根平面図】



【鬼瓦】

大峰山入峰修行

「前鬼の裏行場」

山川 公導

十月十一日、十二日に須磨寺青年会主催の大峰山修行に参加して奈良県下北山村の山中にある「前鬼の裏行場」を初めて巡拝させていただきました。「前鬼の裏行場」とは世界遺産の大峰山奥駈道の一部でもあります。前鬼川の上流の溪谷に位置する秘境にあり、「不動の滝」「千手の滝」「屏風の横駈け」「天の二十八宿」「馬頭の滝」等の行場を昔から、山伏、行者達が拝みながら巡ってきた聖地でもあります。

十一日は、山道に車を停めて歩くこと一時間程にある前鬼小中坊という山小屋に泊まりました。みんなで自炊して夕食を済ますと、総勢九名の参加者一同、満天の星空の下、早めに枕を並べて翌日からの修行に備えました。十二日早朝いよいよ往復六時間程かかる「前鬼の裏行場」巡りがスタート。山に分



け入り、関ヶ原峠を過ぎて、急坂を下ると裏行場の入口にある「垢離取場」が見えてきました。エメラルドグリーンに輝く清流の冷たい川に浸り、身についた穢れを払うと思わず心身が引き締まりました。

山岳修行とは、山や滝、自然界にあるものすべてを御神体、仏様と崇め、心身共に新しく生まれ変わって、山を下りてくるといいますが、「前鬼の裏行場」にある落差五十メートルの滝や、その中の「屏風の横駈け」という絶壁にある小径を歩くと、思わず自然と神、仏に手を合わせている自分がいました。中でも、最大の難所「天の二十八宿」では、高さ二十メートル程の垂直の岩場を細い鎖一本で登ります。この鎖を離したら断崖絶壁の真下に落ちるかと思うと、怖さの余り自然と「南無神変大菩薩」と唱えて、神、仏から勇気をいただいていた。手に汗握り、緊張しながらも、最後に「馬頭の滝」を拝して全員、無事に「前鬼の裏行場」巡りを終えることが出来ました。

修行のお山に入ると、自分一人の力とは何と小さいものかと感じます。人は一人で生きているのではなく生かされている、とつくづく思います。皆で支えあいながら生きている。どんなに辛い時、神仏の御加護や、周りの皆の助けをいただきながら生きている、生かされていることをあらためて胸に抱いた「前鬼の裏行場」巡拝でした。

感謝九拜

須磨寺の歴史（十八）

須磨寺では毎年旧暦の二月七日に平教盛の菩提を弔う為の教盛忌を行っています。二月七日は教盛の命日。また三月の第一土曜には須磨浦の教盛胴塚前で教盛祭を行っています。今回も「当山歴代」から、この教盛忌がどのような経緯で行われるようになったのかを見ていきたいと思います。

まず一ノ谷の戦いのあった寿永二年（一一八三）の記事を見てみますと、須磨寺が「源氏縁の寺であるために一ノ谷に在陣した平氏の軍勢に因縁をつけられて山里近郷は乱暴を受け、寺庫が略奪された」という記述はありますが、教盛に関する記述は見当たりません。『当山歴代』における教盛忌の初出はいつかというところ、教盛の五〇〇回忌に当たる天和三年（一六八三）に教盛の五〇〇回忌の追善の為に塔頭六力寺が願主になり、「二月七日から四月晦日まで追福の法事と本尊並びに寺宝の開帳をした。」という記述があります。

なぜ急に教盛忌が始まったのかというと、五〇〇回忌という節目の年という理由もあるでしょうが、『当山歴代』を見てみると、前年の天和二年（一六八二）秋頃に「須磨寺に老翁が化現して、教盛の忌日にあたる二月六日の夜に連夜を勤めれば、将来寺門は繁栄するであろうと告げて飛び去ったので、以後絶えることなく護摩堂で教盛の連夜、理趣三昧音楽等を勤めるようになった」と、書かれています。

この「老翁」とは何者でしょうか。須磨寺がまだ兵庫の会下山にあった時に光孝天皇の夢に現れて須磨の地に寺を移すようにと示されたのは、観音と名乗る老翁だったので、須磨寺の本尊である聖観音であつたと考えられます。

この「老翁」のお告げの通り毎年教盛忌を行うようになり、教盛の五五〇回忌にあたる享保十七年（一七三二）は追善の開帳もするなど特に盛大に行われ、「御本尊靈驗日々これあるにより毎日貴賤群衆、前代未聞に候」と書かれるほど参詣人を集めて賑わっていました。このような歴史を見ますと教盛忌に参列することは、須磨寺本尊聖観音菩薩の靈驗を授かる絶好の機会と言えますので、ぜひ教盛忌にご参列ください。平成二十九年の教盛忌は三月四日です。

次回は江戸時代に須磨寺で行われた開山年忌、弘法大師御遠忌について見ていきたいと思います。

献金のご報告

東日本大震災 平成 23 年～平成 28 年	¥2,725,200
熊本地震 ～平成 28 年 11 月	¥482,000

おぎゃー献金 平成 21 年 7 月～平成 27 年 12 月	¥373,946
関東水害	¥77,000

ご献金に感謝申し上げます。

仙師逍遙

時雨と言うには明るい通り雨の須磨寺参道に、桜の花の香りが漂っています。金や銀と同じ木犀の名で呼ばれながら、ささやく花も淡い香りも目立たないけれど、移ろう季節の名脇役は、やはり「やあ」と声をかけた大切な仲間です。

樹々があり花があり草がある。

この素晴らしい世界で暮らし、衣服のように木の香を纏う仙師と言う職業を選んで、木に触れ、木の深い沈黙の中に例えようのない優しさを感じるとき、木から贈られる無償の愛に、人は果たして応えられているのだろうか、ふと考えることがあります。若い頃のことです。

奈良県の最奥部、山上ヶ岳に源を発する天の川という美しい溪流があります。

天の川は溪流の女王と称される山女魚や鮎の川として名高く、流れに沿って散見する民家では、近辺で産出する良木を使って、有名な鷹の置物を始め様々な木工品が作られています

あるときそういう彫刻の中に仏像を置きたいというご相談を受けました。

訪れたのは二十代の半ば。まだ仙師龍雲を名乗る前の事で何度か訪れているうち、何人かの知己を得ました。宿泊は川沿いにある釣り客のための民宿。眠ると枕の下に谷の音、夏にはホタルや河鹿の笛を楽しめて、心のこもった山菜料理をいただきました。

何度目のことでしょうか。朝、目を覚ますとどしや降りの雨。出かけられずぐずぐ

ずとお昼前、さてどうしようかと縁側に出ると、そこに当家のご隠居さんが、座布団をしいて座っておられました。膝の横には一升瓶、前のお盆には湯呑みが二つと山女魚の焼き干し、そして漬物が大盛り。まるで酒盛りです。

「お兄ちゃんもどうな」

私にもコップを勧めてくれました。残念ながら私は下戸でお酒が飲めません。けれどこの方が口にはされる山仕事のあれこれとても面白くて、しばらくの間おつきあいをいたしました。

外はますます強くなる雨。山の雨は半端ではありません。

その雨を見ながら、コップの酒をひと口ふた口。おじいさん（と言っても今の私より二つ三つ若かったはず）の言葉が、なんだかとても楽しそうに転がります。

聞いていると、ご隠居さんじやなく今も現役で山の組合に所属されていて、不定期ながら、下刈りや枝打ちに出かけて何がしかの日当をいただいているとか。ところがこんなに強い雨の日は山に出られません。かくて朝からの酒盛り。お酒の飲めない私からすれば、日当も出ないしこれはやけ酒？などと思いましたが、おじいさんの顔はニコニコと嬉しそうで、

「今日は大儲けだよ」

と何度も口にされました。

つい、なぜ大儲けですかとお聞きすると、「これだけいい雨が降ると山の木が喜んで元気になって、耳を澄ましたら根っこからじゅうじゅう水を吸い上げる音が聞こえるんや。こう、目を細めると杉の木がググツと伸びるのが見えるやろ。だから大儲けなんよ」

川向こうの雨にかすんだ杉林に目をやりながら、そうおっしゃいました。

残念ながら私にはそれが聞こえません。勿論杉の背伸びが見えるはずありません。けれど、ぼつりぼつりのお話に耳を傾けながら、何だかとても心地よいものを感じました。そしてまた、おじいさんの上機嫌が杉の成長による材木の値上がりなどではないことが、お話を聞いているうち徐々に分かってきました。

何故なら、そのぐんぐん大きくなってゆく杉の木も、杉山も、他人の持ち物であって、その方のもではなかったからです。けれど、山に生まれ山に育って、戦争を除いてその生涯を木と暮らしてきたこの方にとって、山の本一本一本が親しい友人であり家族であり、その成長が自分のことのように「嬉しくてたまらない」と、

そう、遠くを見る目が語っていました。

本当のところ、二十代の私にこの時のお話が全て理解できたとは思いません。けれど大切に持ち続けることで、言葉も木のよ

うに成長するものです。

それから四十年、若い日の天の川の記憶は、それから、仕事上の分岐点や、人生の交差点の信号に立ち止まるたび、頭に浮かんできては、私にとって本当に大切なものを、砂漠の星のように指さしてくれました。

巡り会えた人や言葉やさまじき感動、それはかけがえないこの世の宝物であり、いまの自分を作り導いてくれていると、その有難さをつくづく感じます。

須磨寺大仙師 山高 龍雲

平成29年
年間行事 予定表

平成29年
年忌数え年早見表

- 1月 1日(元旦・日) 開運修正会(大般若転読)
須磨寺本堂
- 3ヶ日 正月特別護摩祈祷 本坊護摩堂
- 1月16日(月) 阪神淡路大震災23回忌速夜法要
- 1月17日(火) 大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂
- 1月18日(水) 薬師寺鬼追い式 頼政薬師寺
- 28日(土)～2月3日(金) 寒行(星祭護摩祈祷)
本坊護摩堂
- 2月 3日(金) 節分星祭護摩祈祷 本坊護摩堂
節分星祭祈祷 蓮生院・桜寿院
- 2月12日(日) 須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿
- 3月 4日(土) 平教盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂
敦盛祭 須磨浦公園 敦盛塚
- 3月11日(土) 東日本大震災 自然災害物故者慰霊法要
- 3月17日(金)～23日(木) 彼岸会(特別護摩祈祷)
- 4月 1日(土) 十三まいり
- 4月 6日(木)～8日(土) 花まつり
- 4月17日(月) 青葉殿 納骨供養祭
- 6月15日(木) 弘法大師降誕会 本坊大師堂
- 7月30日(日) 子供寺子屋修行
- 8月 9日(水) 四万六千日法要(みあかり観音)
- 8月12日(土)～15日(火) 盂蘭盆会
- 8月15日(火) 盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿
- 8月17日(木) 青葉殿盂蘭盆会法要 青葉殿
- 8月19日(土) 盆大施餓鬼法要(桜寿院)
- 8月20日(日) 盆大施餓鬼法要(蓮生院)
- 9月20日(水)～26日(火) 彼岸会(特別護摩祈祷)
- 10月 8日(日) シベリア戦没者慰霊祭 シベリア慰霊碑
- 11月23日(祝・木) 須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊
- 12月31日(日) 千巻心経護摩法要 本坊護摩堂
除夜の鐘 鐘樓堂
(21時30分 除夜の鐘 整理券配布)
-
- 毎月18日 10時 写経会
- 毎月20・21日 お大師さん(縁日)
- 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 10時 護摩祈祷

とり	さる	ひつじ	うま	み	たつ	う	とら	うし	ね	い	いぬ
酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌
平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年
1 ● 羅喉星	2 ○ 土曜星	3 ○ 水曜星	4 ○ 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ○ 土曜星	12 ○ 水曜星
平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成7年	平成6年
13 ○ 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ○ 土曜星	21 ○ 水曜星	22 ○ 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ● 火曜星
平成5年	平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和59年	昭和58年	昭和57年
25 ● 計都星	26 ○ 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ○ 羅喉星	29 ○ 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ○ 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ● 火曜星	34 ● 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和45年
37 ● 羅喉星	38 ○ 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ○ 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ● 火曜星	43 ● 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ● 羅喉星	47 ○ 土曜星	48 ○ 水曜星
昭和44年	昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和36年	昭和35年	昭和34年	昭和33年
49 ○ 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ● 火曜星	52 ● 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ● 羅喉星	56 ○ 土曜星	57 ○ 水曜星	58 ○ 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ● 火曜星
昭和32年	昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和24年	昭和23年	昭和22年	昭和21年
61 ● 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ○ 羅喉星	65 ○ 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ○ 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ● 火曜星	70 ● 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
昭和20年	昭和19年	昭和18年	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年	昭和11年	昭和10年	昭和9年
73 ● 羅喉星	74 ○ 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ○ 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ○ 火曜星	79 ○ 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ○ 羅喉星	83 ○ 土曜星	84 ○ 水曜星
昭和8年	昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	昭和2年	昭和元年	大正14年	大正13年	大正12年	大正11年
85 ○ 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ○ 火曜星	88 ○ 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ○ 土曜星	93 ○ 水曜星	94 ○ 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ○ 火曜星
大正10年	大正9年	大正8年	大正7年	【大厄】 男性：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳							
97 ● 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ○ 羅喉星								

平成29年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引き続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ことには、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。

平成二十九年 年忌一覧	
一 周	忌 平成二十八年亡 二十五回忌 平成五年亡
三 回	忌 平成二十七年亡 二十七回忌 平成三年亡
七 回	忌 平成二十三年亡 三十三回忌 昭和六十年亡
十三回忌	平成十七年亡 三十七回忌 昭和五十六年亡
十七回忌	平成十三年亡 五十回忌 昭和四十三年亡
二十三回忌	平成七年亡 百 回 忌 大正七年亡